

病防第77号
平成27年8月20日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イチゴのナミハダニの薬剤感受性（技術情報第8号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

県内イチゴ産地のナミハダニは、2012年以前に比べ各種殺ダニ剤に対する感受性の低下が認められたため、気門封鎖剤などの物理的資材を積極的に活用して防除しましょう。

1 目的

近年、県内のイチゴ産地のほ場ではナミハダニの多発傾向が続いており、薬剤感受性の低下が疑われている。そこで、防除対策の基礎資料とするため、県内のイチゴほ場でナミハダニを採集し薬剤感受性検定を行った。

2 検定方法

- 1) 供試虫採集年月：平成27年5月
- 2) 供試虫採集地点：玉名市、宇土市、氷川町（全4ほ場）
- 3) 供試薬剤：コロマイト水和剤、ダニサラバフロアブル、マイトコーネフロアブル、スターマイトフロアブル（計4剤）
- 4) 供試濃度：常用濃度、常用濃度の3倍希釈濃度
- 5) 検定方法：リーフディスク法（1薬剤3反復）

採集した雌成虫をインゲンマメ葉片上に12頭放飼し、2日間産卵させた。雌成虫を取り除いた葉片を所定濃度の薬液に約10秒間浸漬処理し、処理後25℃で管理した。処理7日後に生虫数、死虫数、死卵数を計数し、補正死虫率を算出した。

3 検定結果

- 1) コロマイト水和剤は、常用濃度での補正死虫率が供試した個体群全てで80%以下であり、一部では20%以下の個体群も認められた（表1）。本剤は、2009年および2012年の調査でも感受性低下の個体群が確認されていた（図1）。
- 2) ダニサラバフロアブルは、供試した4個体群中3個体群で常用濃度の補正死虫率が50%以下であり、10%以下の個体群も認められた（表1）。今回採集した個体群は、前回の調査（2012年）と同様に感受性が低下していた（図1）。
- 3) マイトコーネフロアブルは、常用濃度の補正死虫率が全ての個体群で80%以下であった（表1）。今回採集した個体群は、前回の調査（2012年）に比べて、補正死虫率が低く、感受性低下が確認された（図1）。なお、処理11日後の補正死虫率は、全ての個体群で95%以上であり、殺虫効果の発現に時間を要した（表1）。
- 4) スターマイトフロアブルは、供試した4個体群中3個体群で常用濃度の補正死虫率が90%以上であったが、1個体群では約21%と低かった（表1）。今回採集した個体群では、前回の調査（2012年）に比べて感受性が低下した個体群が確認された（図1）。

4 防除対策

- 1) 殺ダニ剤に対する感受性が低下しているため、薬剤抵抗性の発達を防ぐ目的で、必ず耕種的防除を行う（詳細については、平成27年6月11日付け平成27年度病害虫発生予察注意報第1号を参照）。
- 2) 気門封鎖剤などの物理的資材を積極的に活用する。気門封鎖剤は、ハダニ類に直接付着しないと効果がないため、特に丁寧に散布する。また、卵への効果や残効性が無いため、5～7日の間隔で複数回散布する。
- 3) 殺ダニ剤は、同一系統薬剤の連用を避けるため、育苗から本ぼでの栽培期間を通し計画的に使用する。なお、果実に薬害や汚れを生ずる恐れのある薬剤については、果実に影響の無い時期に使用する。
- 4) 農薬は、ラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守して農薬の安全使用に努める。

表1 イチゴのナミハダニに対する各種薬剤の補正死虫率

個体群	各薬剤による補正死虫率(%)								無処理区の死虫率(%)
	コロマイト水和剤		ダニサラバフロアブル		マイトコーネフロアブル		スターマイトフロアブル		
	常用 (2000倍)	3倍 (6000倍)	常用 (1000倍)	3倍 (3000倍)	常用 (1000倍)	3倍 (3000倍)	常用 (2000倍)	3倍 (6000倍)	
A	15.5	17.3	45.8	16.7	49.4 (97.6)	56.4 (98.9)	100.0	100.0	4.6 (4.6)
B	73.9	57.0	97.9	93.9	41.4 (100.0)	18.4 (99.5)	100.0	97.6	3.7 (9.4)
C	77.1	42.3	3.9	4.3	78.4 (100.0)	66.8 (100.0)	21.2	1.5	2.9 (2.9)
D	48.9	70.6	7.9	0.7	46.2 (100.0)	40.6 (100.0)	92.4	90.5	2.8 (2.8)

- 1) 検定はリーフディスク法で行った。採集した雌成虫をインゲンマメ葉片上に12頭放飼し、2日間産卵させた。雌成虫を取り除いた葉片を所定濃度の薬液に約10秒間浸漬処理し、処理後25℃で管理した。処理7日後に生虫数、死虫数、死卵数を計数し、補正死虫率を算出した。1薬剤3反復とした。
- 2) マイトコーネフロアブルおよび無処理の()内の数値は、処理11日後の補正死虫率もしくは死虫率を表す。

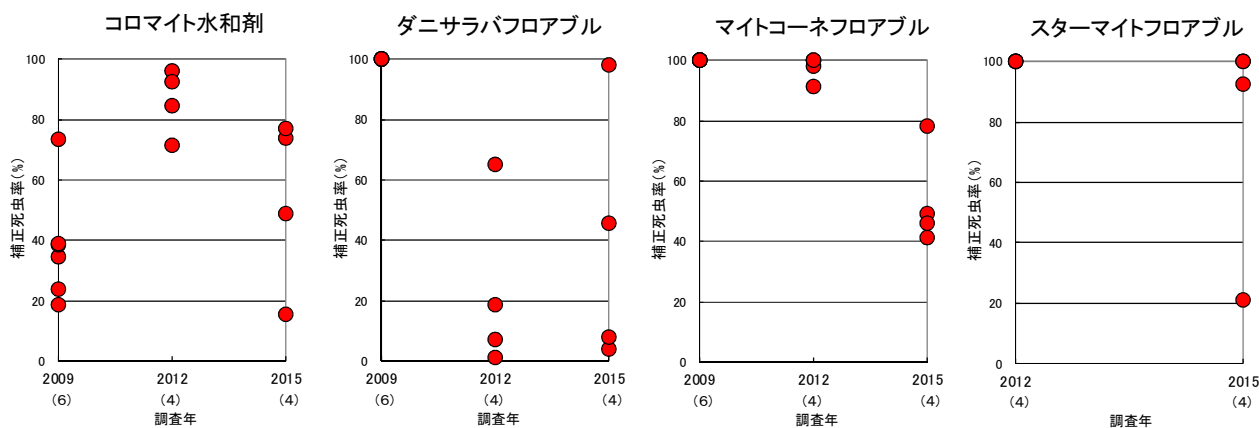


図1 イチゴのナミハダニに対する各種薬剤の各年次の補正死虫率

注) 調査年の下部の()にある数字は検定個体群数を表す。

※なお、本文はホームページ「<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>」上に掲載しています。

熊本県農業研究センター
生産環境研究所 病害虫研究室
担当：児玉、荒木
TEL : 096-248-6490
FAX : 096-248-6493